

1. 単元名 表現の工夫を捉えて読み、それを生かして書こう

～「鳥獣戯画」を読む/日本文化を発信しよう～

2. 単元目標

- 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。(思考力・判断力・表現力)
- 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。
(思考力・判断力・表現力)
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。
(思考力・判断力・表現力)
- 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げるのに役立つことに気づくことができる。(知識及び技能)
- 文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもってパンフレットを作ることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、『鳥獣戯画』を読む』を表現の工夫を捉えて読み、それを通して学んだ表現の工夫を活用して、調べたことを書く複合単元である。

『鳥獣戯画』は、蛙と兎が相撲を取る様子を連続式絵巻に表現したもので、様々な表現手法は、のちの漫画やアニメにつながる特徴を持つことも児童の興味関心を書きたてる教材である。「『鳥獣戯画』を読む」は、その絵の連続性の面白さ、表現の秀逸さを説明する説明文である。また、歴史的に受け継がれていたという時間軸と、世界の中の日本という空間軸の双方を得られる。児童は、読み手にすばらしさを共感してもらうための文章の工夫や視覚的な資料の示し方など、さまざまな表現の工夫を学ぶことができる。学んだことを生かして、表現を工夫して自国の文化のすばらしさを伝えるパンフレットを協働して作る活動を通して、文絵や写真などを用いた文章表現について深く考えることができる。

(2) 児童観

対象学級の児童は、これまで、段落相互の関係に着目しながら、文章の構成を考えることができるようになってきている。前期単元の「時計の時間と心の時間」では、たくさんの事例の説明から筆者の意図や主張を捉え、自分の考えを持ちながら読む学習をした。事実と意見・考えを関連付けて読んだり、文章と図表などの資料と結び付けて読んだりして、自分の確かな考えを持つには至っていない。

対象学級には、外国から編入した児童が2名在籍しており、身振り手振りで意思疎通を工夫しながら、二人の日本の学校生活がうまくいくよう支援をしている。日頃から、言語や生活様式の違いに気づく機会があり、お互いの異文化に興味をもって生活している。

- 対象児童：6年生 女児（滞在歴：0年6か月 学習歴：0年4か月 出身：ベルギー 母語：オランダ語）
3年前、家族で世界をクルーズする旅を始め、途中、新型コロナウイルス感染対策のロックダウンのため、タヒチに数か月とニュージーランド1年半の滞在を経て、2023年6月福岡に入港、姪北小に編入した。日本には、2023年3月まで約10か月の滞在予定。日本語でのコミュニケーション力の習得と学校生活への適応指導が、日本語指導の主な目標で、「聴く」「話す」力の定着を優先にした指導となる。学級担任の支援で、日本語学習・教科学習への取り組みや友だちとの関係は良好に進んでいる。家庭教師やホームスクーリングなどで学習をしている。学年相当の認知力があり、学習意欲も高い。異文化を体験することを楽しんで生活している。

- ・日本語の力

挨拶や教室での教師や簡単な指示などは聞きとることができる。日常の会話では、身振りや指差し、視覚的資料の活用、部分的な母語のサポートなどがあれば、ある程度支障なく学校生活を送ることができる。しかし、学習言語の獲得には至っておらず、個別の配慮を要する。

母語での読み書きのスキルは、学年相当の力を身に付けており、自分の考えや意見・感想などを伝える文章を書くこともできる。日本語での読み書きについては、リライト文や難解語句の説明、視覚的資料の活用などの支援があれば、中学年程度の短い文章を読んで、大まかな内容を理解して、自分考えを持つことはできるが、日本語で読解したり、自分の考えを表現したりすることは難しい。

- ・教科のスキル

- ・日本語で理解できない教科学習は、母国とのカリキュラムの違いなどで未習の内容もあるため、担任の個別支援や日本語指導での取り出し学習などで、算数や理科などを中心に内容を調整しながら学習を進めている。学習意欲は高く、ホームスクーリングで補充学習もしている。

- ・本単元で予想される困難さ

- ・「鳥獣戯画」の内容の読解
- ・調べ学習で得た情報を日本語でまとめたり、発信したりするときの日本語力

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、体言止めや読み手に呼びかけるなど文末表現、全体から細部に注目させる説明の構成、挿絵の提示の仕方、また、解説している部分と筆者の評価している部分に着目させ、文と絵を結びつける工夫を捉えさせる。そして、「論の展開について」「表現の工夫」「絵の示し方」など筆者のさまざまな表現の工夫に気づかせながら教材文を読ませ、自国の文化を伝えるパンフレットを作る活動の見通しを持たせる。対象児童の読解については、在籍学級を先行して取り出して指導し、リライト文と難解語句の解説をしながら、大まかな内容をつかませ、筆者の表現の工夫を理解させる。

次に、学んだ工夫を生かして、実際にパンフレットを作る活動を 自国の文化のすばらしさをいくつかのカテゴリーに分け、別れたグループで調べたり、構成や割り付けについて話し合ったりして 協働した活動を仕組み、一人が1ページを作成させる。下書きをグループで読み合い、表現の工夫や視覚的資料の提示の仕方などを校正させる。対象児童の活動については、調べる活動を在籍学級と平行して取り出して行い、本やインターネットで調べたり、必要な情報を整理したりして簡単な文を書く活動を支援する。

最後に、作成したほかのグループのパンフレットを読み合い、表現の工夫や視覚的資料の活用などのよい点について交流させる。パンフレットの交流の際には、在籍学級に入り込み、対象児童が読んだり発表したりする活動を支援する。

この学習で、自国の文化について興味を持って調べたり発信したりする活動を通して、自国の文化の良さを再認識するとともに、様々な文化を持つ人が共に生きる社会について考え、多様性を尊重し合う気持ちや態度を養うことにつなげていきたい。

(4) ESD との関連

この題材で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

- ・多様性

多様な文化を尊重し、自国や世界の文化について多面的に見たり考えたりする。

国や地域によって文化は様々であり、それぞれの国や地域で大切にはぐくまれた文化がある。

- ・相互性

さまざまな文化とつながりを持ち、その中で人と人が関わり合っている。

・連携性

異なる文化や価値観においても、寛容な態度で調和を図ったり、互いに協力したりして、これからの生活を構築していこうとする。

この学習を通して育てたい ESD の資質・能力

・批判的に (クリティカルシンキング)

自分や自国に関心を持って、自身の生活を見つめ直す。

・多面的・総合的に考える力 (システムズシンキング)

自国と世界とのつながりや関り、広がり理解して、それらを多面的・総合的に考える

・コミュニケーションを行う力

自分の考えを伝えるとともに、他者の考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う。

・他者と協力する態度

他者の立場に立ったり、共感したりする。他者と協力・共同して物事を進めようとする

(グループの活動がより良い方向へ向かうよう、友だちと話し合ったり、アドバイスしたりする)

・つながりを尊重する態度

自分が自国の歴史や世界とつながっていることに関心をもち、人やもの・こと・社会・自然などと自分とのつながりや関りを尊重し大切にしようとする。

この学習を通して育てたい ESD の価値観

・人権・文化を尊重する

国や地域によってさまざまな文化があり、それぞれ大切に育まれていることに気づく。

言語や人種、生活様式、文化などの多様性を尊重し、さまざまな視点を持って考える。

達成が期待される SDGs

16 平和・公正

17 グローバル・パートナーシップ

4. 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。	①「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。 ②「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ③「読むこと」において、目的に応じて、文章路図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。	文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもってパンフレットを作ろうとしている。

5. 単元計画 全 12 時間 (在籍学級：7 時間、日本語教室取り出し：5 時間)

	学習活動	学習への支援	在	日	評価・備考
1	学習の見通しを持つ	<ul style="list-style-type: none"> ・ジブリ作品を切り口に、作者高畑勲について紹介する。 ・「鳥獣戯画」を見て、自分が考えたことを共有させる。 ・単元全体の学習計画を確認し、見通しを持たせる。 	○		ウ (主体的)
2	筆者の表現の工夫について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・体言止めや読み手に呼びかけるなど文末表現 ・全体から細部に注目させる説明の構成、 ・挿絵の提示の仕方、 ・解説している部分と筆者の評価している部分 ・文と絵を結びつける工夫 など ・筆者の表現の工夫について考えさせる。 ・考えたことを交流させる。 		○	イ③
3	「論の展開について」			○	(思判表)
4	「表現の工夫」		○		ア
	「絵の示し方」など		○		(思判表)
5	「鳥獣戯画」に対する自分の考えを書き、友だちと交流する				
6	自国の文化について調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自国の文化の何を取り上げるか話し合わせ、グルーピングする。 ・学校図書、新聞、インターネット、インタビュー等で情報収集の支援をする。 ・著作権や引用・出典など、調べた情報も使い方について確かめる。 	○		イ③
7	<ul style="list-style-type: none"> ・本、インターネット等で情報を収集する。 ※予想されるカテゴリー 「和食」「行事」「習慣」「祭り」 「着るもの」「建築」「アニメ・マンガ」「音楽」「歴史」… 			○	(知・技)
8	パンフレットにまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで構成について話し合わせる。 ・形式フォームを準備し、下書きを書かせる。 *校正の視点（表現の工夫や資料の活用など） <ul style="list-style-type: none"> ・見出し ・事例 ・引用、出典、URL ・絵や図表、写真の効果的な活用 ・構成 など 	○		イ①
9	・パンフレットの構成を決める			○	(思判表)
10	<ul style="list-style-type: none"> ・割り付けや見出しを決め、下書きを書く。 ・グループで読み合い、校正する。 			○	イ② (思判表)
11	他グループのパンフレットを読み合い、それぞれの良さについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ形式で交流させる。 ・感想はオクリンクでも共有する。 *表現の工夫や資料の活用のよかった点に着目して交流させる。	○	※入り込み	ウ (主体的)
12	多文化共生について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・自国の文化の良さを再認識するとともに、異文化を持つ人が共に生きる社会について考えさせる。 	○		

6. 実践

- ・日本やベルギー、スリランカの文化を写真やイラストで分かりやすく交流することができた。

説明や質問は、視覚的資料を活用したり、英語と日本語を混ぜて使いながら話したりして、互いに理解する工夫をしていた。

- ・それぞれの児童が自国の食習慣や行事と比べながら考えたり、文化の違いを知って感想を持ったりすることもできた。

- ・対象児童は、これまでの国語の単元では、日本語力がハードルとなって他の児童と

同じように取り組むことが難しいものがほとんどであったが、この単元では、外国人にも馴染みのあるアニメに関する説明文であったことや 自国の文化を友達に伝えるという目的もあって、単元を通して、学習意欲を保ちながら活動を進めていた。



7. 成果と課題

○学級全体が異文化について共感的に考え、互いの違いを理解しようとしていた。

○この学習を通して、自分たちの'当たり前'とは違った多様な文化背景があることを知るよいきっかけとなった。

○この学級には、スリランカとベルギーの外国人児童が在籍しており、この学習が自国の文化や異文化に対する理解を深めるだけでなく、お互いの理解を深めることにもつながった。

●担任の理解と協力を得て、在籍学級と日本語指導教室が学習進度や資料を共有するなど連携した指導の下にこの学習を実現することができたが、多忙な学校現場において、連絡を密にしながら、個に応じたきめ細やかな指導を行うことの難しさを感じた。

筆者 高畑勲について

・アニメーション作家、プロデューサー
代表作「風の谷のナウシカ」「火垂るの墓」「天空の城ラピュタ」など

850年前の国宝である鳥獣戯画とアニメとどんな関係があるのだろうか

筆者は、「鳥獣戯画」の絵の描き方や絵巻物について、どんな感じ方をしているのだろうか

色や筆運びに注目しているのはアニメ作家らしいな。

動物が人間みたいに遊んでいる

現在のアニメや漫画につながる部分がたくさんある

アニメ作家だからこそ、鳥獣戯画のすばらしさを読み手に伝えたいのかな

筆者は『「鳥獣戯画」』のすばらしさをどのように表現しているのか詳しく読んでみよう

読み手に自分の考えを効果的に伝えるために表現や構成をどんなふう工夫しているだろう

- ・論の展開… 絵などの資料の使い方、身近な例を挙げる
- ・表現の工夫… 文末の工夫（体言止め、読み手に呼びかける）
- ・絵の示し方… 資料を分けて示す、時間の流れがわかるように示す

学んだ表現の工夫を生かして、自国の文化を発信するパンフレットを作ろう。

自分の国の文化にはどんなものがあるだろうか。

和食、お茶、祭、正月、着物、城、アニメ・マンガ、民謡、花見…

グループの友だちと表現の工夫について友だちと話し合いながらパンフレットを書こう

日本各地にいろいろな祭りがあるな

他の国の人も「お花見」をするのかな

「アニメ・マンガ」は、海外でも人気があるのは、どうしてかな

「文化」とは何だろう。

- ・民族や地域社会それぞれにある生活様式。
- ・人々が日常的に行っていること

日本にも世界にもそれぞれの文化がある

その地域の気候や歴史などが文化に関係しているな

似ている文化やまったく違う文化があるのかな

作ったパンフレットを読み合って、それぞれの良さについて話し合おう。

自分（や他）の国の文化にはどんないいところがあるだろうか。

自分の国の〇〇にはそんな意味があったんだ。

世界には、様々な文化を持つ人が共に生きているんだな

自分は自国の歴史や世界とつながっているんだな

自国や他の文化にはほかにどんな良さがあるのか知りたい

自国の文化も他の文化も大切にしていこう